



留学 アセスメントテスト



JAOS留学アセスメントテストで

このテストでわかること、その利用方法

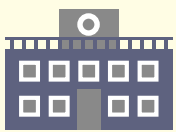
◎ テストでわかること



自分の行動の
特性がわかる



無意識に行っている自分の行動に気づき、
自己理解が進む



留学に必要な
能力や行動が
わかる



- ① 海外の『授業で求められる行動』を測定
- ② 留学中に身につけたい能力を診断
- ③ 『留学生生活を失敗させるマイナス行動』
を測定



自分の強みと
課題がわかる



自己の強み/弱みを活かせる



留学の成果が
わかる

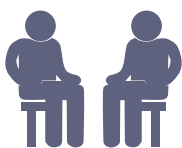


自己の変化を客観化でき、
学習効果を実感できる



◎ テストの利用方法

■ 留学プログラム運営者の場合



客観的なデータに基づいた的確な留学カウンセリングができる

相談者の行動特性や能力を客観的に知ること、留学カウンセラーの固有の経験や能力に過度に依存しない、成功する留学のための的確な留学カウンセリングを行うことができる



留学プログラム成果分析や他のプログラムとの比較などに利用できる

教育の一環としての留学プログラムの成果を可視化することで、成果分析や他プログラムとの比較を行えるようになる



留学プログラム内容の改善や見直しの客観的指標にすることができる

プログラムごとに成果分析をし、それぞれの結果を吟味し比較することで、課題や改善点を導き出し、今後のプログラム改廃や改訂・開発の材料にすることができる

■ 留学する学生の場合



自己分析・自己理解、留学の心構えができる

自分では気づいていない自分の行動特性や現状の能力レベルを知ること、的確な留学の心構えを持つことができる



留学成果を上げるための指標が持てる

強みと課題の把握することで、留学前の準備や留学中に必要な行動が明確になり、留学の成果を上げる行動を意識的に行うことができる



留学成果の可視化をして自分の留学の総括をする

留学で向上した能力と留学中に変化した行動の関係を可視化することで、留学の総括が行える。また、総括を踏まえて今後の目標を立て、就活などの際に留学成果を具体的に説明することができる

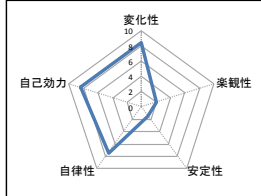
留学前後における「行動特性と能力」変化を診断

■ 行動特性プロフィール

行動特性プロフィール

人間の行動には、意識的な行動と意識せずになげなく行っている行動とがあります。このアセスメントでは、この2種類の行動を4つの領域に分類し、さらにそれを5つに分け合計20指標で分析しています。数値が高い(10に近い)指標ほど、日常で出現しやすい行動特性になっています。(全受験者の平均値は5.0です。) 単独の指標の高低よりも、各指標の組み合わせにより、行動全体のプロフィールが現れてきます。自分の行動特性を客観的に振り返り、自己理解の促進や良好な対人関係の構築に役立ててください。

〇〇様の、自分自身に関する【認識の傾向】

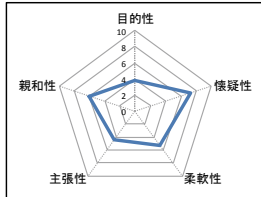


自分に対して自信を持ち、失敗しても立ち直りが早く、物事に積極的に取り組むでしょう。自信を持って行動することは重要ですが、失敗の原因への反省が少なれば成長が止まってしまうかもしれません。自分の行動を振り返り客観性を確保しましょう。

現状にこだわらず、変化を受け入れ、新しいことに挑戦するでしょう。変化を求め新しいことにチャレンジすることは良いことですが、安定感に欠けるかもしれません。持続力や継続力の発揮にも心がけましょう。

(注)自己効力とは、自分自身の行動に自信を持ち、結果に対して悩んだり心配をせずにおこなうとする行動特性です。

〇〇様の、人や状況との【関係の傾向】



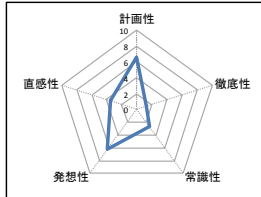
言葉や情報の背景を探り、真意を見極めようとする行動が多いでしょう。相手の言葉や情報の真意を探ることは大切ですが、過度になると「疑り深い」という印象を与えます。相手を信頼し素直に受け入れることにも心がけましょう。

親和性が高く、相手の気持ちや感情を尊重し、丁寧な対応をしましょう。相手の気持ちや感情に気づかうことは大切ですが、感情を優先しすぎて、問題の解決や目標の達成がおろそかにならないように注意しましょう。

(注1)親和性とは、集団で行動する時に、目的や課題の達成よりも、相手やメンバーの気持ちや感情を優先しようとする行動特性です。

(注2)懐疑性とは、相手の言葉やテレビやネットで流れる情報を表面的に受取らず、その背後にある真意を見極めようとする行動特性です。

〇〇様の、環境やできごとへの【対応の傾向】



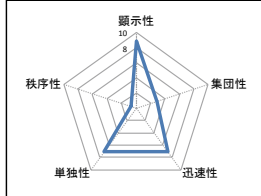
細かいことにこだわらず、大局観をもって進めるでしょう。いたずらに完璧性にこだわらず、大局的に進行することは必要ですが、ミスが許されない場面では細心さにも注意しましょう。

規範やルールに縛られず、気持ちや感情を素直に表現するでしょう。自分の思いや感情に素直なことは大切ですが、自由奔放で「子供っぽい」という印象を持たれないように注意しましょう。

(注1)親和性とは、集団で行動する時に、目的や課題の達成よりも、相手やメンバーの気持ちや感情を優先しようとする行動特性です。

(注2)懐疑性とは、相手の言葉やテレビやネットで流れる情報を表面的に受取らず、その背後にある真意を見極めようとする行動特性です。

〇〇様の、存在や実行の関する【表現の傾向】



過度にルールや基準に束縛されることがなく、自由な気持ちで行動することが多いでしょう。柔軟に行動することは大切ですが、「ルールを守らず、勝手なことをする」と思われまいように注意しましょう。

顕示性が高く、多くの人に明るく積極的に話しかけ、自分をアピールする行動が多いでしょう。自己を積極的に表現することは重要ですが、アピールが過ぎると単なる「出しゃばり」と思われるかもしれません。状況を見極め、相手を引き立てることに心がけましょう。

(注)顕示性とは、自分の行動を見せたい、見てもらいたいと思いつつ、自分自身を積極的にアピールしようとする行動特性です。

『JAOS留学アセスメントテスト』とは行動特性の診断をベースにした留学アセスメントテストです。

人間の行動には、意識的な行動と意識せずになげなく行っている行動とがあります。

JAOS留学アセスメントテストでは、受験者の行動を4つの領域に分類し、さらにそれを5つに分け合計20指標で分析しています。

数値が高い(10に近い)指標ほど、日常で出現しやすい行動特性になっています。但し、単独の指標の高低だけではなく、各指標の組み合わせにより、行動全体のプロフィールが現れてきます。

行動特性を「良い、悪い」という評価的に見るのではなく、行動の特性を「どのように活かしていくか」という視点で振り返ることにより、自己理解が深まり、能力の向上に役立ちます。

■ グローバルで活躍するための姿勢 Global Mind

チャレンジ力	現状に満足せず、高い目標を設定し挑戦し続ける	57.5
成功への熱意	困難な状況においても、熱意を持ち続け、最後までやり遂げる	65.8
主体的行動	自ら目標を設定し、当事者意識を持って行う	63.8
多様性受容	多様な文化や価値観を、幅広く受け入れる	51.2
探究心	さまざまな情報を取り入れ、多様な考え方に興味を持ち、追求する	51.1

留学を成功させ、自己を成長させるために必要なマインド(取組み姿勢)を5つの項目で診断しています。

ポイントが高い項目(50を超えて100に近い)は現状での『強み』として発揮されています。

留学を通して、高いポイントの項目はさらに向上させ、低いポイントの項目は課題として設定してください。

■ 留学で求められる行動 Global Behavior

積極的な質問	わからないことを明確にしたり、話題を深めるために、積極的に質問する	51.9
パーティシペイト	多様な人や異文化との出会いを求めて、イベントやパーティ等に積極的に参加する	44.7
持続力	新たな能力を身につけるために、やろうと決めたことや取組んだことを持続する	22.2
評価の受容	自分自身の成長や能力の向上のために、相手からの評価を素直に受けられる	53.7
ホスピタリティ	相手との信頼関係を築き、相手に受容れてもらうために、気配りをしながら貢献する	42.8

海外での授業やアクティビティ、現地の人達との交流等の活動において、具体的に求められる行動を5つの項目で診断しています。

留学中にこれらの行動を積極的に行うことが、留学を成功に導きます。

ポイントの低い項目については出発前に対策をたて、向上できるように準備をしてください。

■ マイナス行動への注意喚起と新しい環境への適応

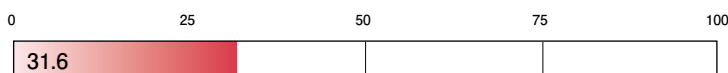
ディレールメント

自衛論争性	自分の弱みを見せまいと、頑(かたく)なに、言い訳や論争をする	42.5
尊大性	自分の実力以上に、偉そうな言動をする	51.2
完璧性	細かなことにこだわり過ぎて、目的を見失い、先に進まない	51.8
衝動性	感情をコントロールできず、突発的な行動をする	39.0
依存性	人に頼り過ぎ、自分の意思で決定しない	34.2
回避性	やらない言い訳や、出来ないと思い、積極的に行動をしない	39.6
孤立性	周囲と交わらず、協力が必要な場面でも、単独で行動している	49.0

ディレールメントとは『初対面の人との関係を悪化させるマイナス行動』を意味します。

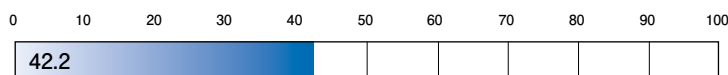
ポイントが高い項目は、クラスメートやホストファミリー等との対人関係の構築を妨げる行動になります。能力(コンピテンシー)のグラフと異なり、ポイントが高い方がマイナスの行動です。特に80ポイントを超える項目は改善が必要な課題となります。

ストレス状態



受検時のストレス状態とストレス耐性との数値を確認し、留学中において、自己のストレスチェックの指針として活用してください。

ストレス耐性力



留学中にストレスが高まった場合は、ストレスに過剰に反応せず、その原因(ストレッサー)を明確にして、ストレス耐性力を発揮してください。

■ 自己成長促進 Development Letter

①『強みとして発揮されている能力(コンピテンシー)』に関して

強みとして発揮されている能力(コンピテンシー)

強み①

相手の気持ちや感情を批判せずに、そのまま受け容れるという「受容力」を高く発揮しているでしょう。自分の考えを押し付けることがなく、相手の感情に配慮しているでしょう。

強み②

プロセスを客観的に振り返り、設定した計画を必要に応じて修正し、応用する能力を高く発揮しているでしょう。

上記の強みを活かして、更に、自己の成長を促進してください。

行動特性の分析結果から、受検者が高く発揮していると思われる能力を2項目ピックアップしています。この能力の高さを活かして、更に、自己成長を図ってください。

②『成長のための課題』に関して

成長のための課題となる能力(コンピテンシー)

課題①

細かいことにこだわらず、物事を大局的に捉えて、解決に向かって、力強く推進しているでしょう。但し、細部まで徹底して行い、ミスをおかさず完璧さを追求することにも心がけましょう。

課題②

規制や細かなルールに縛られず、自由で大らかに行動し、臨機応変な対応が出来るでしょう。但し、自由に振舞うことを優先しすぎて、ルールや規範をないがしろにすることがないように注意しましょう。

課題③

事前にいろいろな問題を予測して、リスクと感じれば細心の注意を払い、軽はずみな行動に出ることは少ないでしょう。但し、先のことを心配するあまり、楽観性が損なわれ、根拠のない不安に落ち込まないように注意しましょう。

課題④

自分自身への信頼感が高く、物事がうまくいかなくても自信を失うことなく、前向きに取り組むことが出来るでしょう。但し、自分に自信を持ち過ぎて、反省を怠(おこた)ったり、客観性を失うことがないように注意しましょう。

行動特性の分析結果から、受検者の自己成長を促進するための課題を4点挙げています。4項目すべてにチャレンジするのではなく、受検者が最も大切だと思う項目を1つ選択し、日常生活を通して行動の変容を図ってください。

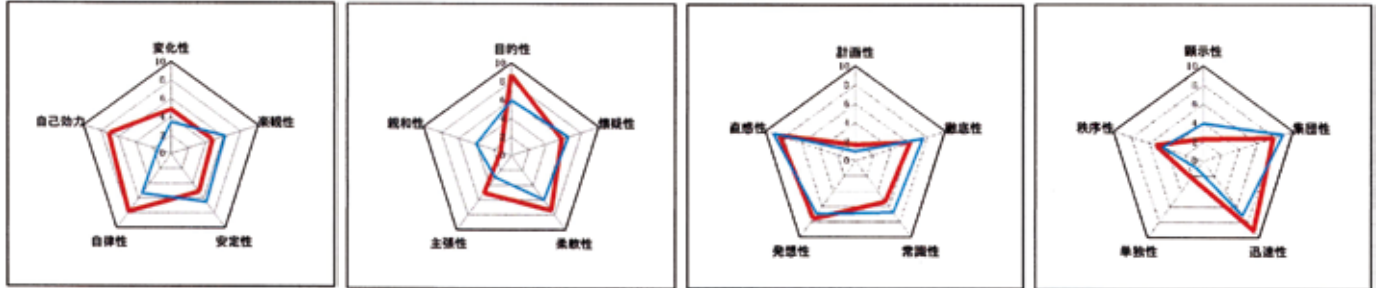
留学体験を成長に繋げる

① 行動特性の変化

留学中の体験や学習行動により、出発前と帰国後の行動特性に変化が生じます。変化が大きい項目と変化の少ない項目を見て、留学中のどんな行動がその起因になっているかを考えて、今後の成長につなげてください。

出発前：ブルー
帰国後：レッド

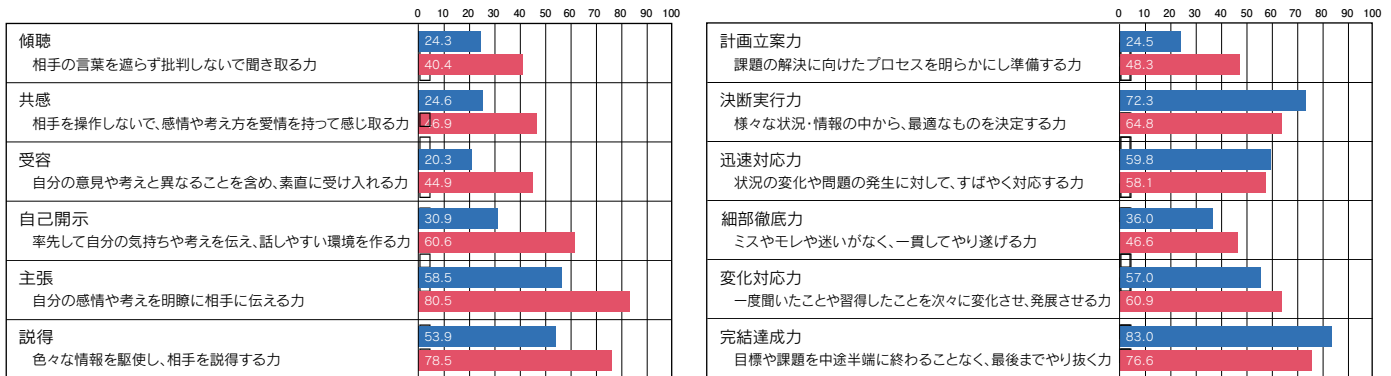
A.自分を自己理解するための【基本行動の傾向】 B.人や問題への【関わりかたの傾向】 C.仕事への【取組みかたの傾向】 D.集団内で行動する場合の【自己表現の傾向】



② コミュニケーション力、問題解決力の変化

プラスの変化は、その能力の発揮に積極的に取り組んだ成果としての現れです。マイナスに変化した項目は、留学中に発揮できなかった能力です。なぜ発揮できなかったのかを振り返り、帰国後の課題として取り組んでください。意図的に取り組むことにより出発前よりも向上します。

出発前：ブルー
帰国後：レッド

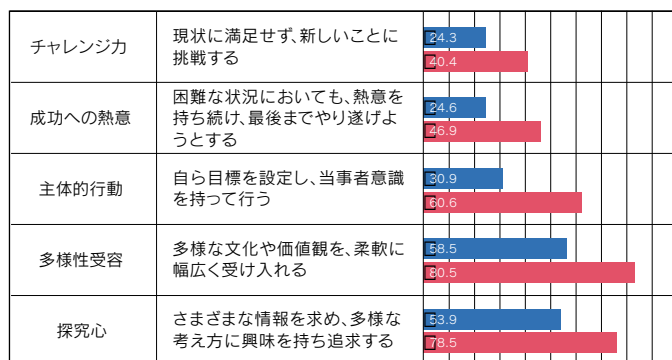


③ Global Mind、Global Behaviorの変化

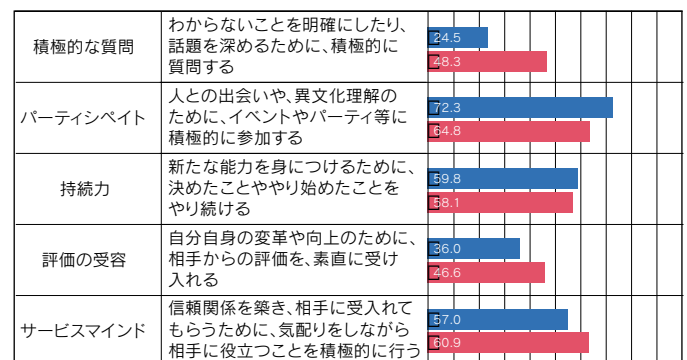
留学中の体験を振り返り、どんな行動がGlobal MindやGlobal Behaviorの変化につながったかを認識し、今後の活動に活かしてください。

出発前：ブルー
帰国後：レッド

【グローバルで活躍するための姿勢】 Global Mind



【留学で求められる行動】 Global Behavior



JAOS留学アセスメントテスト活用事例

■一橋大学の場合

[ご回答者]国際教育センター長 阿部仁 様

●貴大学で留学アセスメントを学生に受けさせた狙い(理由)と活用方法

「行動特性診断」結果を渡航前オリエンテーションで学生にフィードバックしています。このうち、「コミュニケーション力」の向上を留学目標の一部として渡航前に意識付けさせて、目標達成に向けた行動と連動させることで変化・育成を促す教育ツールとして使っています。

●JAOS留学アセスメントのどのような点に良さを感じて採用に踏み切ったのか

渡航前学生のグローバル力を測定し、本学学生の行動特性をマクロで把握した上で、渡航前オリエンテーションにおける学習目標をコミュニケーションに絞ることができました。学生の属性や背景によってコミュニケーション力の傾向も異なっており、一概に同じプログラムを提供するのではなく、学生の特性を伸ばすための教育プログラムがデザインできると思います。

●実際実施してみて、このテストをどう評価しますか

テストの信頼性、有用性についてはデータを蓄積してから判断したいと思いますが、教育ツールとしての有用性は上記のとおりです。

■東京都様の場合

東京都立高校生留学支援事業

「次世代リーダー育成道場」平成28年度参加対象高校生100名

■早稲田大学様の場合

平成28年度早稲田大学留学センター

春の短期留学プログラム参加対象者

■昭和女子大学の場合

[ご回答者]教学支援センター 国際交流課次長 山崎真伸 様

●貴大学で留学アセスメントを学生に受けさせた狙い(理由)と活用方法

大きく二つの理由があります。一つは、学生が自分自身の特性を客観的に把握することで、留学中の活動のヒントにもらい、帰国後は就活等に活かしてもらうこと。二つ目は、大学側がプログラム毎の特徴を把握して、プログラム評価につなげることです。ほかにも、留学に不安を抱えている学生への個別指導、広報活動への協力を依頼する際の参考にするなど、幅広く活用できるのではないかと思います。

●JAOS留学アセスメントのどのような点に良さを感じて採用に踏み切ったのか

設問が簡潔で所用時間が短いことや、オンラインなので学生が自分の都合で受験できることなど、利便性が高いことがよかったです。また、いわゆる性格診断の側面だけでなく、留学中のストレスに対するネガティブな反応についての指標があることも魅力でした。

●実際実施してみて、このテストをどう評価しますか

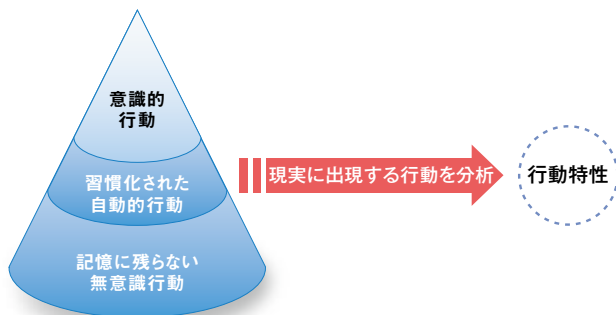
留学による効果測定としてはたいへん貴重なデータだと思います。プログラムによって変化率に差が出ているので、運営側としては参考になります。

課題としては、短期プログラムについては変化率が少なくプログラム評価に活用できないこと。また就活への利用についてはこれからだと思います。今後さらに活用していくには受験料がリーズナブルであることも重要だと思います。

JAOS留学アセスメントテストと一般の心理テストとの違い

■JAOS留学アセスメントテストの場合

- 性格という不明瞭な構成概念を使用せず、現実に出現する行動を対象として測定。
- 測定対象は人間の行動。人間の行動は変化しますから、その変化を測定できることが大きな特徴。



■一般的な心理テストの場合

- 性格特性論をベースに作成しており、個々の性格特性と人類一般の共通特性の組合せによってパーソナリティを記述することが主題。
- 「性格は生涯にわたって変化せず固定的である」という理論に基づいて作成されており一度受けるとそれで終わりとなるのが特徴。



1991年に設立された留学事業者団体。2008年一般社団法人格を取得し、現在は事業者団体に加え、オーストラリア大使館マーケティング事務所、ブリティッシュ・カウンシルなど在外公的機関が加盟し、日本における留学啓蒙や留学業界の各種基準づくりを柱に様々な活動を推進しています。また、世界の留学事業者団体によって構成されたFELCAに加盟し、日本代表として日本の留学事情を発信し、日本人留学生の海外での受け入れ環境の整備を促進しています。

<http://www.jaos.or.jp>



行動特性研究所は脳科学や心理学の領域にまたがり人間の行動に関して研究している機関です。

創立&テスト開発者:星 洋

北海道大学 文学部哲学科卒業

Western Michigan State Universit(USA) Philosophy Master卒業

所属学会・研究発表機関:

日本産業カウンセリング学会、日本応用心理学会、日本労務学会、

早稲田トランスナショナルHRM研究員

●お問い合わせ